

『総合的な学習の時間』白神タイム全体計画

平成29年度 八峰町立八森小学校

教 育 目 標
よさを認め、つながり、拓く子どもの育成
総合的な学習の時間「白神タイム」の目標
自ら課題を見つけ、探究的・協同的に学ぼうとする子どもを目指して
目 指 す 子 ど も 像
<ul style="list-style-type: none"> ・課題への意欲をもち、自ら課題意識をもてる子ども ・地域の自然や人、ものに積極的にかかわって、課題解決に取り組む子ども ・地域を大切にすることをもちった子ども ・活動してきたことを積極的に伝え合う子ども

育 て た い 力			
	【学習方法に関すること】	【自分自身に関すること】	【他者や社会とのかかわりに関すること】
3・4年	<ul style="list-style-type: none"> ・自分やみんなが取り組む問題を発見する。 ・教科書や辞書、図鑑などの参考資料から必要な情報を選び出し、カードやノートに記録する。 ・調べたことを記録・整理し、自分なりの方法で工夫して表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の問題やめあてをしっかりとって、活動や追究に取り組む。 ・自らの生活やあり方を見通す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と協力して学習する。 ・友達と自分の考えを比べる。
5・6年	<ul style="list-style-type: none"> ・自分やみんなが取り組む問題を発見する。 ・教科書や辞書、図鑑などの参考資料から必要な情報を選び出し、カードやノートに記録する。 ・調べたことを記録・整理し、自分なりの方法で工夫して表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の問題やめあてをしっかりとって、活動や追究に取り組む。 ・自らの生活やあり方を見通す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・場に応じたあいさつや言葉づかいをする。 ・友達に対して、自分の考えを分かりやすく伝える。

	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・八峰町の自然や産業・文化などを調べたり体験したりする活動を通して、白神のよさを考え、ふるさとを愛する心を育てる。 			
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・枝豆を育てる活動から、自ら課題を見つけ、探究する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども園や海光苑の訪問、能代支援学校との交流に向けて、どんな活動がよいか企画し、実行する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・八峰町ジオパークを巡り、地域の自然の仕組みや生態系、生活との関わりを考え地域のよさとして発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の生活や行事に目を向けて課題を見つけ、主体的・協同的に解決する学習活動を通して、自己の生き方について考えようとする。
単元名	「八森の素晴らしさを発信しよう ～白神を発信する！～」			
単元名	「いいとこいっぱい八峰町」 ～真瀬溪谷探検隊～ ～海の恵みを味わおう～	「いろいろな人に優しい町づくり」 ～園児やお年寄り、支援を必要とする人たちにできることを考えよう～	「八峰町のよさを知り、伝えよう」 ・宿泊体験学習 ・他校交流	「八森の素晴らしさを発信しよう～八峰町の海と山」 ・海洋教育 ・環境教育
単元名	「枝豆のひみつを調べよう」	「1/2成人式を成功させよう！」	「地域の自然を世界に」 ～ジオパーク探検～ 「6年生ありがとう集会を成功させよう！」	「1年生応援プロジェクト」 「運動会を成功させよう！」 「修学旅行を成功させよう！」 「学習発表会を成功させよう！」 「卒業プロジェクト」
単元名	合計70H	合計70H	合計70H	合計70H

平成29年度 総合的な学習の時間（八森の海・山・川を大いに学ぶ）

八峰町立八森小学校

	テーマ	海・川	山	その他
1・2年	地域と生活 公共物・公共施設 季節の変化と生活 自然や物を使った遊び	・磯遊び（海開き）	※山村広場登山 ・ブナッコランド ・白瀑神社	※白瀑神社 ○街探検 ・ファガス ・中浜商店街 ・郵便局、銀行 ・駐在所 ○ハロウィン仮装
3年	「八峰町の特産物」	・海の恵み （アブラッコ釣り） （ハタハタ網外し） （ハタハタ調べ）	・山の恵み （山菜採り） （キノコ） （真瀬溪谷探検）	・農産物調べ ・農産物の栽培と⇒
4年	「高齢者に優しい町づくり」 福祉教育			・障害疑似体験 ・福祉教室 ・海光苑訪問 ・八森子ども園訪問
	「1/2成人式」	・サケの放流 ・秋の真瀬川探検		・家族への感謝と夢
5年	「地域の自然を世界に」 八峰町ジオパーク	・ジオパーク巡り ・磯歩き（探検）	・ジオパーク巡り	・ジオパーク学習
	宿泊体験自然体験	・シーカヤック ・磯遊び	・ニツ森登山	
	八峰町によさ 他校との交流会 「6年生ありがとう集会」			9月東成瀬小学校 ・全校行事企画運営
6年	「八峰町の海と山」 （海洋教育） （環境教育）	・海洋教育プログラム（8時間）	・ブナの植樹 （八森中事業継続） ・留山見学	
	1年応援プロジェクト			自主研修計画
	卒業プロジェクト			夢の実現
他の素材		観：雄島探検 岩：チゴキ灯台 岩・観：漁港	※岩：のけぞり山 ※観：糠森山 ※八：薬師山	※八幡神社 ※真行寺、松源院 ・鹿島祭り

1 横断的・総合的な課題	2 興味・関心に基づく課題	3 地域の特色に応じた課題
① 国際理解 ② 情報化の進展 ③ 自然環境と環境問題（6年生） ④ 資源やエネルギー問題 ⑤ 高齢者とその暮らし（4年生） ⑦ 健康な生活 ⑨ 食をめぐる問題 ⑧ 科学技術の変化	① 将来への展望 ② 物づくりのおもしろさ ③ 生命現象の神秘	① 町づくりや地域の活性化 ② 地域の伝統と文化の継承 ③ 商店街の再生 ④ 防災、安全な町づくり ⑤ 地域の自然（5年生） ⑥ 地域の偉人 ⑦ 地域の神社・お寺 ⑧ 地域の特産品（3年生）

八峰町立八森小学校 白神タイム年間指導計画（6年）

2017年度

<p>目指す子ども像</p>	<p>・課題への意欲をもつ子ども 課題への意欲をもち、自ら課題意識をもてる子ども</p>	<p>・課題を主体的に解決する子ども 地域の自然や人、ものに主体的にかかわって課題解決に取り組む子ども</p>	<p>・地域を大切にする子ども 地域を大切にする心をもった子ども</p>	<p>・発信する子ども 活動してきたことを積極的に伝え合う子ども</p>
-----------------------	--	---	--	--

内容\月	4月★	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月★
全校行事	始業式・入学式 身体測定・健診 交通安全教室	春季大運動会 サツマイモ苗植え 避難訓練	プランター苗植え 地域クリーンアップⅠ	終業式	始業式	防犯教室	学習発表会 ことぶき大学 なべっこ&マ ラソン大会	避難訓練 芸術鑑賞教室 地域クリーンアップⅡ	八小オリンピック 終業式	始業式	避難訓練 6年生ありがとう集会	卒業証書授与式
の 流 れ												
<p>活動Ⅰ</p> <p>「八森の素晴らしさを発信しよう～八峰町の海と山」 ・海洋教育 ・環境教育 (30時間)</p>												
<p>活動Ⅱ</p> <p>「1年生応援プロジェクト」 「運動会を成功させよう！」 「修学旅行を成功させよう！」 「学習発表会を成功させよう！」 「卒業プロジェクト」 (40時間)</p>	<p>・1年生のためにできることを考え、様々な取り組みを行う。 (6時間)</p> <p>・運動会を成功させるためにできることを考え、一人一役の練習や準備、応援練習などを行う。 (6時間)</p> <p>・八森の自然の素晴らしさを出し合う。 (1時間)</p> <p>・海と山のつながりをテーマとした学習計画を立てる。 (1時間)</p> <p>・実物大のイルカづくりを行う。 (1時間)</p> <p>・野生イルカ的生活を知る。 (1時間)</p> <p>・イルカの体の仕組みを確認する。 (2時間)</p> <p>・ブナの植樹をする。 (3時間)</p> <p>・留山を見学する。 (4時間)</p> <p>・多様な海洋生物がいることを学ぶ。 (1時間)</p> <p>・海の食物連鎖を学ぶ。 (1時間)</p> <p>・森と海のつながりを学ぶ。 (1時間)</p> <p>・地域の自然を実感する。 (2時間)</p> <p>・海と山のつながりについてまとめる。 (7時間)</p> <p>・豊かな自然を守るために、自分たちができることを考える。 (5時間)</p> <p>・修学旅行を成功させるためにできることを考え、しおり作り、ルール作り、自主研修コース作りなどに取り組む。 (8時間)</p> <p>・学習発表会を成功させるためにできることを考え、学年発表や委員会の役割の準備、練習などを行う。 (8時間)</p> <p>・お世話になった小学校や後輩たちにできることを考え、感謝の気持ちを込めて実践する。 (6時間)</p> <p>・卒業に向けて、学校文集や卒業文集などの作成をする。 (6時間)</p>											

【プログラム進行表】

八峰町立八森小学校

◎連続授業のテーマ(全4回):イルカ・クジラが棲む海とブナの森、そして”自分の暮らし”とのつながりを学ぶ

- ・目的 地域の「森」と「海」の自然環境を理解するだけでなく、両者の”つながり”に切り込んだ学習を行うことにより、森と海の相対的理解を基盤とした環境保全意識を高める。
- ・概要 地域の海岸にストランディングが見られる鯨類をきっかけに、海の生態系への理解、山とのつながりに学習を進め、森が豊かな海を育てていること、また海が存在が森を育てていることを体験的に学ぶ。
- ・参加者 6年生 23名
- ・実施場所 八森小学校体育館
+ (第2回)八峰町文化交流センター ファガス
+ (第4回)八峰町周辺海岸

【第1回:7月11日5・6校時 14:05~15:40】

■タイトル 実物大のイルカをつくろう! Part 1

■ねらい 海の野生生物の存在を実感する
イルカ(海洋哺乳類)の体のしくみを知る。

■手法 イルカの実物大模型をつくりながら、海洋哺乳類の特徴を学ぶ。

■進行

時間	項目	内容	備考	備品
	事前準備	用品・用具の準備	・あらかじめ4班が座る場所に 用具を置いておく	【班ごとに準備するもの】 シート 型紙 クレヨン ドライヤー(口に紙筒) セロテープ 2個 両面テープ 2個 ハサミ(各自) ティッシュペーパー *名札シール(人数分)
【1時限目】 0:00~0:15	挨拶	●挨拶 ●スタッフ紹介(ボランティアスタッフ)。		・ホワイトボード① ・DVD「wild dolphin」

	導入:野生イルカのイメージを持つ	<p>●イメージの共有 イルカについて知っていることを、子ども達に聞く。 → ホワイトボードに書き出す * モデルとなったイルカの生息地(御蔵島)の紹介。日本地図を書く。 島には人が260人ぐらい。子どもが4人で手をつないでやっと届くぐらいの太い樹が350本はえている深い森ある。その島の周りにイルカが130~170頭ぐらいいる。今でも100頭以上いる。</p> <p>●野生イルカの紹介(水中映像) 「野生のイルカはどんな暮らしをしているのかなあ、ごはんはどこで食べているのかなあ、なんで島の周りにいるのかなあ…」と思って、調べることにしました。多くの人と調査をしていた。すごくおもしろいことがわかった。まずその、面白いことをみんなに見せます」 * 映像(DVD) 4分間</p> <p>●ミナミハンドウイルカの生息域の紹介。 どちらかというと暖かい海にいる(日本海能登のあたりにいる。分かったのは10年ぐらい前)</p>		<p>・DVD「wild dolphin」 ・DVD再生装置 ・モニターまたはスクリーン</p>
0:15~20	イルカの体を知る	<p>・イルカの作成方法の説明 「これからみんなで今見たミナミハンドウイルカをつかって、この体育館を野生イルカの棲む海にしたいと思います。」 材料(シート・型紙など)の説明。 ・イルカの体の構成要素の確認 「イルカをつくるのに、イルカの体はどんなものがあつた？」 構成要素(ヒレ・フンなど)を子ども達とリストアップしながら型紙を紹介 →発言を、ホワイトボードにメモ。</p>	<p>・尾びれ、胸びれ、背びれ、フン、胴体(尾びれとフンは組で2人で作成する) * 上記以外の要素は、ホワイトボードにメモしておく。</p>	<p>・ホワイトボード①</p>
0:20~45		<p>●イルカ作成 ・型紙をシート、用具を配る。 1)ヒレ・フンと胴体を作成。</p>	<p>・グループごとに協力をしながらヒレと胴体を作成 * スタッフは基本教えない * できるだけビデオで確認するようにしむける。</p>	<p>・DVD「weld dolphin」(個体紹介) ・DVD「lab to class」</p>
【途中で休憩:10分】		<p>*くぎりのいいところで休憩をとりながら作成をする</p>		
0:40~45	まとめ	<p>* 修了証を配る(名札シールを貼って感想を書く) ●明日の予定伝達 「明日はファガスに行って、もっと詳しくイルカやクジラのことを知る。クジラ博士も来る」</p>		<p>・終了証書</p>

【第2回:7月12日 2・3校時 9:30~11:20】

■タイトル 実物大のイルカをつくろう! Part 2

* 特別講師 国立科学博物館名誉研究員・山田 格先生

■ねらい 骨の構造から、海洋哺乳類の特徴を知る(陸上動物との相違点を知る)
秋田県近海に生息する鯨類を学ぶ
水中生活に適応した哺乳類「鯨類」を知る

- 手法 イルカの実物大模型をつくりながら、イルカの細部を野生イルカの水中映像で確認し、海洋哺乳類の特徴を学ぶ
オオギハクジラをはじめ、鯨類の骨格標本の観察を通して、海洋哺乳類としての鯨類の特徴を学ぶ

■進行

時間	項目	内容	備考	備品
				【ファガス準備】 ・ミナミハンドウイルカの骨 ・PC ・モニターまたはスクリーン ・ホワイトボード ・前日作ったイルカ(4頭) ・ドライヤー
【1時限目】 9:30～40	挨拶	●集合:ファガス和室 ●挨拶:今日の授業の説明。 「今日はイルカ博士に東京から来ていただきました！」 山田先生紹介→先生登場、挨拶	山田先生は控え室で待機	・山田先生のフィールドでの写真
9:40～55		●イルカ作成 1)イルカの水中映像を見ながら、尾びれ、胸びれ、フンをつける。 * 胴体を一度膨らませて立体的なイメージをつける Q:お腹がなんで白いのか？ Q:胸びれ、尾びれ、背びれなど、骨はどうなっていると思うか。 2)目、噴気孔をつける。 Q:なぜ鼻が頭の上にあるのか？ Q:水の中で目は見えるのか…。 →山田先生に質問	* スタッフは基本教えない * できるだけビデオで確認するようにしむける。 * エコロケーションの説明 * 子どもから出た質問で映像で分からなことは、山田先生に聞く	・DVD「weld dolphin」(個体紹介) ・DVD「lab to class」 ・ホワイトボード ・ビーカー、割り箸
9:55～10:10		3)耳・おへそ・排泄孔・おっぱいをつける。 Q:性別はどうやってわかる？ ・それぞれのイルカのオス・メスを決める。名前をつける ・イルカを膨らませて披露。	* 実施できれば行う ・骨伝導 耳を塞いで声を出してみる。あごを叩いてもらう。 ・流線型の説明。マグロはヒレをしまえる！	・ドライヤー ・ホワイトボード ・クレヨン(黒) ・イルカの解剖図(本)
10:10～20	体のなかはどうなっているのか	4)近海の鯨類の紹介 Q:八峰町の海にもイルカの仲間がいるのを知っているか？ Q:(ファガスにある骨格標本の)オオギハクジラの骨を見たことある人？ * オオギハクジラもミナミハンドウイルカも「鯨類」という同じ仲間。 Q:イルカとクジラの違いは？ →山田先生解説		・世界のクジラポスター
10:20～25	休憩			
10:25～35	クジラの骨の確認	・グループでクジラの骨を観察する(2班ずつ)5分で交代 オオギハクジラの骨(正面):1・2班 ハンドウイルカの骨(和室):3・4班	* 骨の構造を自分で確かめる	

10:35～11:00	クジラの骨の話	<p>【山田先生ミニレクチャー：骨からわかるクジラとイルカのこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肋骨 ・頭骨 <p>鼻の孔＝鼻道：呼吸、音を出すしくみ あごの骨：エコロケーション（音で観る） 歯：オオギハとハンドウの違い＝何を食べている？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肋骨＝呼吸との関係 ・胸びれ＝人間の手に似ている ・尾びれと足の骨 ・背びれの役割（骨から位置を知る？）など <p>* 間で子ども達からの質問を随時入れていく</p>		
11:00～05	イルカの基礎知識 まとめ	<p>イルカの基本的な話（山田先生） 子ども達からの質問タイム含む</p>	* 日本海（秋田沖）にいる鯨類の種類の話を入れる	
11:05～10	まとめの挨拶（次回につなげる）	<ul style="list-style-type: none"> ・秋田県の海にはイルカやクジラの仲間がたくさんいる。それは彼らの餌になるたくさんの魚やイカなどの海の生きものがたくさんいるということ。 ・秋田沿岸の日本海はとても豊かな海。次回（10月）は、そんな海のことを一緒に学んでみたい。 <p>* 修了証を配る（名札シールを貼って感想を書く）</p>		
11:10～	移動	学校へ移動	* スタッフはファガスで後片付け	

【プログラム進行表】

八峰町立八森小学校

【第3回:10月11日5・6校時 14:05~15:40】

- タイトル イルカの暮らし/海の生きもの/海と森のつながり
- ねらい 水中生活に適応した哺乳類「鯨類」の暮らしを知る
イルカ・クジラから海の生物全般に視点を広げ、海には多様な生物が「暮らしている」ことを実感する。
(海の)生物は「食べる食べられるの関係」でつながっていることを知る。食物連鎖の理解。
人間は、海の生物ではないが、海の世界の頂点に位置する生物であることを知る。
水の循環を通してつながる「森と海の関係」に気づく。
- 手法 カードゲーム
 - ・導入:イルカを知ろう!
 - ・海の生きもの椅子取りゲーム(身近な海洋生物の体の特徴と生息場所)
 - ・餌の餌の餌は何?
 - ・双六「海へ! 水てき君の大冒険」

■進行

時間	項目	内容	備考	備品
	事前準備	イルカを膨らませる DVDセッティング確認	イルカを膨らませておく	*名札シール(人数分) 前回つくったイルカ(1頭)
【1時限目】 0:00~0:10	挨拶・導入	●挨拶・導入 「前はイルカの体のしくみを、イルカをつくったクジラ博士の話を聞いて勉強しました。今日は、イルカやクジラが海のなかでどんな暮らしをしているのか、イルカやクジラが暮らす海の世界はどんなふうになっているのかを一緒に学んでみたいと思います」 ●スタッフ紹介 ●講師紹介		・ホワイトボード① クジラのポスター
0:10~20	野生イルカの暮らしを知る	●アイスブレイク ●クイズ「イルカを知ろう」1 Q:イルカはどうやって眠っているんだろう? A1:泳ぎながら眠る。 A2:水面に浮いて眠る。 A3:岩の影に隠れて眠る。 ・正解だと思うボードのところに子どもが移動する。代表者にそれぞれ選んだ理由を聞く。 【答えの解説】 集団で眠る。片目を開けているものもいる。 水族館のイルカは水面に浮いて眠る。危険がないから? 同じように水面に出てきて呼吸をするウミガメは岩に隠れていることが多い。 水族館のイルカもプールの底で寝ていることもある。	出題・子どもの移動:1分 解説:3分	フリップボード(眠る)

	4470	<p>●クイズ「イルカを知ろう」2 Q:イルカは海の中でどうやって暮らしているんだろう? A1:ひとりで気ままに旅をしている。 A2:家族で一緒に暮らしている。 ・正解だと思うボードのところに子どもが移動する。代表者にそれぞれ選んだ理由を聞く。 【答えの解説】 ミナミハンドイルカは母系社会。オスはひとりでメスは群れで定住。出産前のメスが仲間の子どもの子守りをする。 他にも家族で暮らす種がいる。マッコウクジラ、シャチの一部など。 鯨類の中でも生まれて早い時期から単独で行動するものもいる。イシイルカ、ネズイルカ、スナメリなど。</p>	出題・子どもの移動:1分 解説:3分	フリップボード(社会)
0:20~35	多様な海の生きものを知る	<p>●海の生きものイス取りゲーム ・椅子を丸く並べて座る ・ゲームの説明 ・練習(生きものの特徴を覚える):生きものの特徴を伝え、あっていると思う人はカードをあげる ・鬼をつかって椅子取りゲームを行う(最初の出題でスタッフが1人椅子に座る) ・数回行ったあとカードを変えて、もう一度イス取りゲームを行う。 ・カードを海の断面が描かれたブルーシートに並べて、さまざまな生きものと生息場所を確認する。</p>	* 練習のときに、指導者は子どもたちが知らない生きもの生態等を教える * スタッフ1名は後半子どもと一緒にゲームに参加(鬼をつくるため)その他の指導者は子ども達をサポート	椅子:参加者数 ブルーシート(断面図) 実施の仕方(資料)
0:35~50	食物連鎖	<p>●海の食物連鎖カードゲーム ・1枚ずつカードを配る ・陸の食物連鎖のカードを使ってゲームの仕方を説明 ・仲間を探して、「食べる-食べられる」の順に並ぶ ・グループごとに発表 * 生産者である「植物」の大切さを知る Q:食物プランクトン、海藻の餌は何? →太陽の重要性和光合成の説明。有機物を生産できるのは植物だけ! ・スタッフが持っているカード発見! 人間は海の生物ではないけれど、海の生態系の頂点にいる生物。 すべての海の生きものを、海の自然を大切にすることの大切さを伝える。 * 途中のまとめ</p>	椅子を片付ける 太陽のカード(スタッフ1) 人間のカード(スタッフ2)	食物連鎖カード:5種+解説用カード
【休憩:10分】			双六の準備	
【2時限目】 0:00~0:10		体と頭ほぐしのゲーム		

0:10~30	森と海のつながりを知る	<ul style="list-style-type: none"> ●森と海のつながり(双六)「海へ！水てき君の大冒険」 ・ゲームの説明:5名のグループで「自分たち」がコマになって、森から川や町を通って海に行き、雲となってまた森へ戻る「水」の旅を描いた双六を行い、水の循環を体験する。 ・30秒~1分間隔で、グループ(5グループ)ごとにスタート 	<ul style="list-style-type: none"> *グループは、食物連鎖のグループで行う *1グループにスタッフおよび教員が1名つき、流れをサポート 	双六のマス(イラスト+△) ビニールテープ セロテープ(各班1つ) 養生テープ サイコロ 5個 出来事カード 箱(出来事カード入れ) 海と森のつながり(解説用) 海と森のつながり(配布用) 模造紙 5枚 細字マジック クレヨン メモ用紙(感想を書く)
0:30~40		<ul style="list-style-type: none"> ・あがったら、グループごとに途中で集めた「出来事カード」を並べ模造紙にはる。「水の旅」の感想をシェア。 ・グループごとの「水の旅」を、代表者が説明。 		
0:40~45	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> *修了証を配る(名札シールを貼って感想を書く) 明日のプログラムの連絡 浜辺にくる時の注意:汚れてもいい温かな服、歩きやすい靴、風よけの上着 持ち物:ビニール袋(レジ袋)、あれば軍手または汚れてもいい手袋 		・終了カード

【第4回:10月12日 2・3校時 9:30~11:20】

■タイトル 海辺で地域の自然のつながりを実感する

■ねらい 海岸に打ち上げられた漂着物を通して、身近な海岸につながる森や深海の存在を実感する。
海洋自然に与える人間生活が海に与える影響(漂着ゴミ)の存在を知る。

■手法 ビーチコーミングを行い、浜辺で拾った「海のもの」「山(森)のもの」「人間のつくったもの」などに分け、それぞれの発生場所と、浜辺までの旅を考える

■進行

時間	項目	内容	備考	備品
		マイクロプラスチックを探す		
【1時限目】 0:00~05	ビーチコーミング	浜辺に集合 挨拶・本日の予定の説明・注意事項(伊東)	ファガス前の海岸	
0:05~25		<ul style="list-style-type: none"> ●浜辺の「気になるもの」を見つけよう ・ビーチコーミングやり方の説明 浜辺を歩いて、気になるものを見つけてもってくる(生きているもの以外) 探索場所の範囲。時間。 ・浜辺を歩いて気になるものを探す ●森と海の連続する風景を確認(浜辺体験のまとめ) ・海岸から山を眺め、双六で学んだつながりを思い出す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・探している間は、拾ったものの説明はできるだけしない ・ゴミなど、子どもが拾っていない場合はスタッフが拾ってくる 	レジ袋 軍手
0:25~45		海岸から学校(体育館)へ移動		
【休憩:5分】				
【2時限目】 0:00~20	漂着ゴミの発生場所を考える	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに「海のもの/陸のもの」「自然のもの/人工物」に分ける ●「気になるもの」の元の家はどこ? ・グループごとに「気になるもの」を選び、それらがどのようなもので、どこからがやってきたか(どこで使われていたか)を考える。 		

0:20～30		<ul style="list-style-type: none"> ●ビーチコーミングまとめ(人見)～海と森のつながり ・双六ゲームの体験も取り入れながら、海と森のつながりを説明 	<ul style="list-style-type: none"> ・白神の森(山)の写真 ・森のなかを流れる川と山にかかる雲の写真 ・海から山を眺めた写真 	
0:30～40	クジラ漂着の話	<ul style="list-style-type: none"> ●クジラも海からやってきた ファガスのクジラが漂着した時の話等(工藤英美先生) 		
0:40～45	まとめの挨拶	<ul style="list-style-type: none"> ●プログラムのまとめ(人見→伊東) 八峰町は世界遺産になっている緑豊かな森と、クジラも住んでいる生物が豊かな海がある、世界にも誇れる自然がある場所。たくさん自然と遊んで、そして自然の不思議をたくさん見つけてほしい。 * 修了証を配る(名札シールを貼って感想を書く) 	終了カード	